



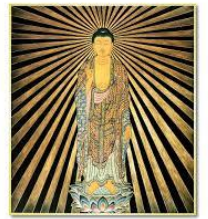
# 楽々亭通信

第 32 号  
令和5年6月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

## 5月の楽々亭を

### 開催いたしました



本願寺派布教使

安堂芳雅

「我」と「汝」

こんにちは、安堂です。

■よばれているのは「私」

新宿の東口エリアでは、こんな録音放送が流れているそうです。

「そこで客引きをしている君、いますぐやめなさい。新宿区では、カラオケ店や居酒屋などによる客引きが、条例によって禁止されています。いますぐやめなさい！」「そこで客引きをしている君・・・(繰り返し)」

取り締まる警察官はいませんが、路上の客引き(キ

ヤッチ)たちはこそこそと仕事(?)をしています。

この警告は録音にもかかわらず、どうして彼らに圧をかけるのでしょうか?

仮に、流れているのが、次のような内容だったら、どうでしょう。

「新宿区ではカラオケ店、居酒屋などによる客引きは、条例により禁止されています。」

彼らはおそらく、涼しい顔で客引きを続けるでしょう。

どこが違うのか、もうわかりですね。

「そこで客引きをしている君」と、名指している

から、客引きは他人ごとではないのです。

「君!」と名指したうえで、「いますぐやめなさい!」と警告している。だから当事者に刺さるのです。

■もうひとつ、日本公共広告機構のテレビコマーシャルです。

命は大切だって、何千何万回いわれるより、あなたが大切だ、

誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていく。

覚えておられる方もいらつしやると思います。

私たちは子供の頃から、「命を大切にしましょう。」と何回も教えられました。

啓発ポスターなども見てもきました。

でもそれを本当に自分の事として、胸を打たれて聞き、見たことがあったでしょうか。

私は、「いのちを大切に」と何千何万回いわれるよりも、たった一回でも、「あなたが大切です」と誰かが言ってくれたら、嬉しいと思います。

「ほかの誰でもない、私はあなたが大切なんだよ」

今、そういう願いを私たちはいただいております。それが阿弥陀さまの願いです。

■我、能く汝を護らん

「全員、すくいますよ」ではありません。阿弥陀さまは、私をすくいたいとおっしゃるのです。なぜか、

「私」の弱さを見抜かれたのです。

それこそ、仏の悟りを開くには箸にも棒にもかからない、「私」を見抜かれたのです。

だから、「立派になれ」と

おっしゃいません。「強くなれ」ともおっしゃいません。

「そのまま引き受ける」とおっしゃるのです。

「あなたをすくえる仏になったから、そのまま安心してまかせ」と。

善導大師は阿弥陀さまの仰せを、「我、能く汝を護らん」(私があなたを護ります)とお示し下さっています。

味わい深いエピソードがありましたので、ご紹介いたします。(称名寺HPより抜粋)

明治時代に島地黙雷(しまじもくらい)和上という有名な学僧がいらつしやいました。

和上に書をしたためて欲しいというお坊さんが訪ねてきました。

「和上さま、何か一筆、あげたいお言葉をお願いなのですが」

「いい言葉は何かありますかね」

「どんなお言葉でも結構です」

「そうですか、では如来さまの仰せを書かせていただきますしよ

う」  
スラスラと文字をしたためる和上。書かれたのは、

「汝一心正念来我能護汝」

(汝、一心に正念にしてただ

ちに來たれ、我よく汝を護らん)

というご文のようでした。しかし、よく見ると文字が抜けています。

最後の「汝」という言葉が書かれていないのです。

「和上さま、とてもありがちお言葉ですが、最後の文字をお書き忘れてはいませんか。」  
「いやいや、書き忘れてはいません。その抜けたところには、あなたの名前が入るのです」

和上の説明を聞いたお坊さんは大変喜んで書を受け取って帰ったということです。

私が「私たち」という言葉で阿弥陀さまのおすくいを話した時に、「安堂、阿弥陀さまはあなたたちと仰せか！」と先生からこつびどく叱られました。  
何年も昔のことですが、大事にしています。

阿弥陀さまから「汝」とよびかけられているのは、他の誰でもなく、阿弥陀さまに見抜かれた「私」です。この「私」こそが、阿弥陀さまのおすくいの目当てだったのです。

### ある日の午後で

人生は生まれたときから5苦を持って生まれてきていると、お釈迦様はおっしゃっています。

- 1、生、2、老、3、病、4、死、5、愛別離

生きていること自体が苦しいことですね。

誰でも若くいたいのですが、老いは誰にでも平等に襲ってきます。病でいつ健康を失うかもしれません。

死、逃げるのが出来ませんし、いつ死ぬのかもわかりません。死は怖いですしそのことを考えると苦痛です。いつまでも生きていられるよう考えますが無理ですね。

愛別離、愛する人とそれが夫であったり子供であったり、友達であったり、親であったり、つらいですがそれが人生ですね。

私たちはそうした苦勞を考えないようにして暮らしています。自殺者が3万人を毎年超えています。

そんな中何を目標にして生きていけばいいのでしょうか、何を考えながら毎日暮らせばいいのでしょうか。

「私はだからそんなことは考えないようになっているの」賢明ですね。

植物を通じて、この世に自分の存在を残された先生がおられましたね、デザイン、人間性、跡継ぎ・・・

トラは死んで皮残す、人は死んで名を残す、と昔から言いますよね。私が死んだらどんなこ

とを人は言うのでしょうか。お金を残したいと思いませんか。私が息子より早く死んだとき、息子は人から、あなたのお父さんは・・・

これが気になりまね。  
今世界はおかしいですね、戦争、地震、温暖化、いろいろありますが私は環境問題にこの先一生をささげていきたいと思っ

ています。そんなところで名を残せれば最高ですね。誰も認めてくれないとしても、自分が自分をほめてあげられる人生を過ごしたいですね。凡夫ですので皆さんのご協力をお願いして、今日はいままで。

— 籠谷 弘 —

### 楽々亭 6月の予定

6月19日(月)  
西京区役所洛西支所会議室  
午後1時30分～3時30分  
5月に開催した場所です。

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。